

# 中尊寺、毛越寺、達谷窟、巖美溪を訪れて (9/2)



(^\_^)/~

昨日天気に誘われ、中尊寺、毛越寺、達谷窟、巖美溪を訪れた。

中尊寺のある山に上がるには月見坂を結構長く登らなくてはならないが、朝も早いこともあり金色堂直ぐ裏の坂の上駐車場に駐めることができればと行って見ると、駐めることができ助かった。

この駐車場側の池に、中尊寺ハス(上の写真)が咲いていたが、このハスは、昭和25年の金色堂の調査の折、藤原泰衡(奥州藤原氏四代)の首桶から蓮の種を発見された蓮の種を、平成10年に開花させることに成功して中尊寺の池に植えられ中尊寺ハスと命名され、別称「泰衡蓮」とも言われている古代蓮。坂の上駐車場に駐めることができたからこそ、鑑賞できたというもの(^\_^)/

800年もの時を経て蘇ったと思うと、正に、先月当HPに記した「植物のあっぱれなまでの婚活！(HP「雑学BN」の書籍等読后感関係(VI)、2013.07.19.:参照)」。

坂上田村麻呂が蝦夷を討伐した記念として建てたといわれている達谷窟(たっこくのいわや)の毘沙門堂(左の写真)のある達谷西光寺は、元職場の同僚の実家でもあることは知っていた。

入場料の受け付けでそれとなく話すと、なんと元同僚のお兄様が奥にいたので、ご挨拶し妹さんのことを色々話した。

厚かましく、受付嬢にも話かけてみるものである(\*^\_^\*)

元同僚は重症児病棟開設(昭和42年4月)の就職時に一緒に働いた元看護師で、今は近くの市内に住んでるので家内とは今もお互いに街中で会ったりしている。

帰宅後直ぐに、兄上に会ったことを電話で報告したようで、兄上も高齢なので「時々受付に来て気分転換をしているようだ」とのこと。

ちょうど咲いている古代蓮を觀賞できたし、元同僚の兄上にもお目にかかることができたし、ラッキーな一日だった(^\_^)